

EDUCATION

RESEARCH

BACKGROU

学校法人 久留米大学

将来構想

VISION

2022-2026



学校法人久留米大学将来構想 Vision 2022-2026 の答申について

◆はじめに

本学の中期計画は、平成24年から平成28年の「久留米大学基本構想」に始まり、現在の「久留米大学将来構想 Vision 2017-2021」へと引き継がれ今日に至っています。現将来構想も令和3年度に最終年度を迎え、令和3年当初より新たな中期計画の検討に着手しました。

建学の精神、基本理念を礎に、これから5年間取り組んでいくビジョン及び全学的な目標を掲げ、部門毎の達成目標、行動目標を設定しました。ここに、第3次中期計画となる「学校法人久留米大学将来構想 Vision 2022-2026」を全学的共通目標（課題）として掲げ、2022年度（令和4年度）から開始する5年間の指標とさせていただきますので、皆さまに共有いたします。

「久留米大学将来構想 Vision 2022-2026」の策定プロセスについて

現在の久留米大学将来構想策定会議において、新たな中期計画は「将来構想 Vision 2017-2021」を引き継ぐ形で検討を行い、①フレームの統一、②重点項目の設定、③定量的指標とする KPI (Key Performance Indicator) の設定重視等、計画策定における形成と構造を見直しました。そして、Society5.0による人間中心の社会の実現に向けたデジタル化やSDGs、ダイバーシティの推進及びこれまで取り組んできた文医融合を加え、部門毎の6つの検討委員会で議論を重ね、重点項目毎に行動目標、行動計画を設定しました。

教学部門には、御井キャンパス検討委員会、旭町キャンパス検討委員会、附設高中校検討委員会の3つを、医療部門には、大学病院検討委員会及び医療センター検討委員会の2つを、そして部門間の共通課題や部門を越える全学的な取組み、各部門への提言や全体的調整等、大局的な役割とする全学共通事項検討委員会で議論を重ね、第24回将来構想策定会議で承認されました。

◆おわりに

本学の使命である教育・研究・医療および社会貢献の質向上とこれらを実現するためには、「安定した経営基盤の確立」は不可欠であり、財務基盤の強化に向けた取組みを行うことが引き続き最重要課題となります。2028年（令和10年）に本学は創立100周年を迎えます。変化に強い、時代に順応できる大学、今後も求められる大学、地域を牽引していく久留米大学を目指し、我々が歴史を刻むという気概を持ち、更なる発展に向け前進してまいり所存ですので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

2022年3月

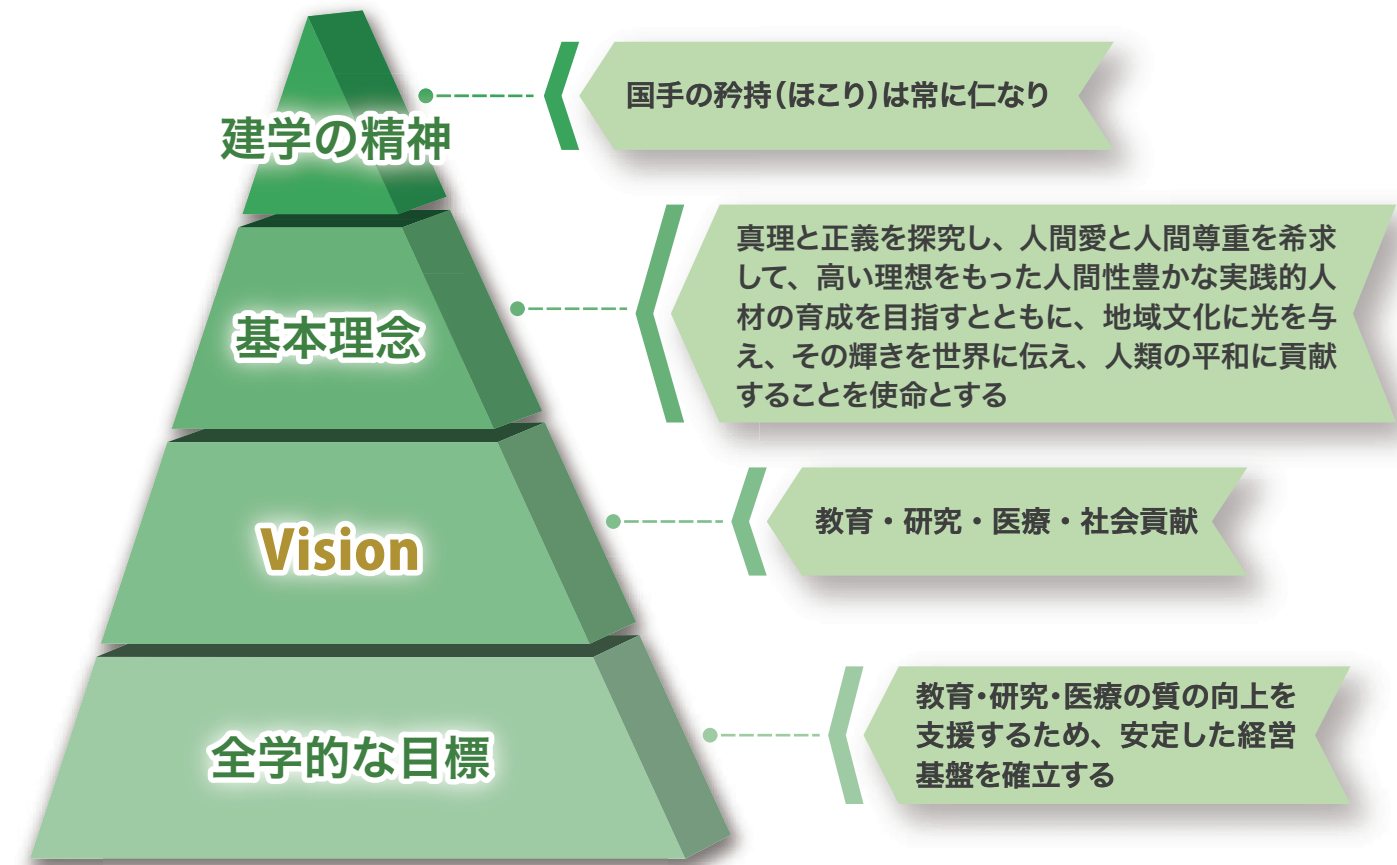
学校法人久留米大学将来構想策定会議
議長 永田 見生
副議長 内村 直尚

久留米大学の将来構想について

本学の将来構想は、学校法人久留米大学の中長期に亘る将来的な基本構想を策定し推進することを目的に、理事長の下に久留米大学将来構想策定会議を設置しています。この会議で議論している将来構想とは、今後5年から10年後の大学の将来像、到達目標で、本学のあるべき姿、目指す姿というべきものです。建学の精神と基本理念のもと、全学的な目標およびビジョンを掲げ、中期計画を着実に実行するためPDCAによる進捗管理を徹底するほか、構成員への理解を深めるため情報発信等を行っています。

このビジョンとは、基本理念を実現するための細分化した目標であり、教職員が判断に迷った時に進むべき方向を分かりやすく示したものです。

将来構想構図



学校法人 久留米大学 VISION

私たち久留米大学は、教育・研究・医療・社会貢献の4つのビジョンを掲げ、持続可能な社会の実現を視野にさまざまな取り組みを進めていきます。

教育ビジョン

- 私達の目指す 教育**
- 【大学】
- 世の中の多様化に適応し、
変革と創造のできる実践的 人材の育成
- 【附設高等学校・中学校】
- 社会的影響力を發揮できる 人材の育成
 - 多様な価値観の尊重



グラウンド イメージ図

附設高等学校
創立75周年

2024

2023

2022

第3次
中期計画
Vision 2022-2026
将来構想

2021

2020

2019

2018

2017

第2次中長期計画
将来構想 Vision 2017-2021

2016

2015

2014

2013

2012

第1次中長期計画
基本構想 Vision 2012-2016



御井本館
人間健康学部新設

90
th
Anniversary



社会貢献 ビジョン

- 私達の目指す 社会貢献**
- 地域から世界へ広がる連携強化による
持続可能な社会への 貢献



医療ビジョン

- 私達の目指す 医療**
- 高度な先進的医療と
地域に根ざした医療の実践



医学部看護学科
新校舎 イメージ図

第4次中期計画へ

100th

2028

2027

2026

2025

2030

2031

BACKGROUND FOR

RESEARCH

EDUCATION

M



御井キャンパス

戦略目標：学内外の連携を深め、多様な志願者を集め、特色のある教育を推進することにより、教育の質を確保する。

| 重点項目 | 行動目標 | 行動計画（5年間） | |
|-------------|---------------------------------|--|---|
| A 文系総合 | 御) A-1 ・社会環境に対応した教育組織の整備 | 1 学部・学科、大学院、別科の在り方の点検（将来像、現行課題など）と対応 | |
| | | 2 附置研究所及び学部横断的組織の位置づけの点検 | |
| | 御) A-2 ・学部横断的な計画的な管理 | 1 教員組織編成の定期的点検と人事計画の実施（人事制度点検含む） 2 御井学舎施設整備計画策定と予算管理計画化 3 学生情報全般に係るIRの部門間連携の組織化 | |
| B 学生受け入れ | 御) B-1 ・本学理念の理解を広める情報発信 | 1 エビデンスに基づいた学生受け入れ方針の点検 2 高等学校との連携強化 3 新たなメディアをふくめた戦略的な広報 | |
| | | 御) B-2 ・社会環境に対応した多角的な入学者選抜 | 1 社会動向を考慮した入試制度の計画的な変更調整 2 受験生のニーズに対応した効率的な入試方法の円滑な実施 3 別科・学部・大学院の間の連携を通じた入学者の確保 |
| | | | 1 学位教育の到達目標に即した教育制度の編成 2 学位アセスメントの制度整備と実施（ディプロマサプリメントを含む） 3 体系的・順序性を担保した効果的な教育運営 4 ポストコロナを見据えた新しい教育制度・運営方法の探求（他大学等外部連携含む） |
| C 教育および学修支援 | 御) C-1 ・時代の変化に対応した教育制度の整備と運営 | 1 IRを通じた学生の学修行動と教育成果の把握 2 学修ポートフォリオの活用による学習成果の可視化 3 授業方法の改善（FD/SD）（学生授業評価利用含む+ティーチングポートフォリオ） | |
| | | 御) C-2 ・教育の質を保证する教育運営改善 | 1 情報化への対応（ICT教育+データサイエンス） 2 変動する国際化への対応（語学教育、留学支援） 3 アクティブラーニング型授業・社会連携教育の組織的推進 4 キャリア教育および資格教育の充実化 5 リカレント教育プログラムの整備・充実化（社会人教育・専門職大学院含む） |
| | | | 御) C-3 ・特色ある教育プログラムの拡充 |
| | 御) C-4 ・きめ細かな学生支援の充実化 | 1 地域社会や卒業生との連携強化による多様な進路選択の支援 2 データ管理システム改善による就職支援の効率化 | |
| | | 御) D-1 ・社会の要請と学生の志向に配慮した進路支援 | |
| | | | 御) E-2 ・研究管理の適切化 |
| | 御) F-1 ・地域社会との連携推進と拠点整備 | | |

戦略目標：特色のある研究の展開を図り、研究のブランド化を進めると共に外部資金獲得の強化を図る。

| | | |
|---------------|---------------------------|----------------------|
| E 研究（研究活動活性化） | 御) E-1 ・研究力の強化と研究成果の発信 | 1 社会課題の解決に取り組む研究の支援 |
| | | 2 外部の競争的資金の応募・採択の支援 |
| | | 3 研究成果・学術情報の集約と公開・発信 |
| | 御) E-2 ・研究管理の適切化 | 1 附置研究所等の共同研究の管理・計画的 |
| | | 2 研究活動コンプライアンスの強化 |
| | | 1 地域連携活動の推進と組織化 |

戦略目標：学内一体となった地域連携・産学官連携を推進し、持続可能な地域と国際社会の発展に寄与する。

| | | |
|-------------|----------------------------|-----------------|
| F 社会貢献・地方創生 | 御) F-1 ・地域社会との連携推進と拠点整備 | 1 地域連携活動の推進と組織化 |
| | | 2 福岡サテライトの活用 |
| | | 3 900号館の活用 |

旭町キャンパス

戦略目標：学内外の連携を深め、多様な志願者を集め、特色のある教育を推進することにより、教育の質を確保する。

| 重点項目 | 行動目標 | 行動計画（5年間） | |
|----------|-----------------------------|---|--|
| A 医系総合 | 旭) A-1 ・社会環境に対応した教育組織の整備 | 1 学部・学科、大学院の現状の点検と将来構想の検討 2 附置研究所等の在り方と将来像についての検討 | |
| | | 旭) A-2 ・医学部内の学部横断的な計画的な管理 | 1 学生カルテの導入検討 2 ICTを用いた教育環境整備の検討 3 医学部連携プログラムによる多職種連携教育の提供 4 旭町キャンパス施設整備計画 |
| | 旭) A-3 ・災害時の学生の安全確保を強化 | 1 安否確認制度の見直し 2 災害時避難訓練計画の策定 | |
| B 学生受け入れ | 旭) B-1 ・優秀な学生の受入 | 1 特徴ある入試戦略の展開（医学科） 2 奨学金制度検討（医学科） 3 保健師教育課程の選抜定員の維持（看護学科） 4 看護学科教育棟の新築（看護学科） 5 入学定員の増員（看護学科） 6 推薦入学者予定者への入学前支援（看護学科） 7 社会人や海外からの志願者増加を見据えた入試制度の見直し（医学研究科） 8 動的能力（臨床力）向上についてHPを介した情報発信及び講座のリンクも含めた総合的英語版HPの構築 9 女性支援についてHPを介した情報発信 | |
| | | 旭) B-2 ・次世代型臨床検査技師として活躍できる学生の確保（医療検査学科） | 1 他大学と差別化できる魅力的な教育プログラムの構築 2 「求める学生像」の入学者を確保するための入試制度の構築 3 学生確保と就職先確保の見通しの検討（アンケート調査） 4 新学科設置の広報活動の実施 |



| 重点項目 | 行動目標 | 行動計画（5年間） |
|---|--|---|
| C-a 学生支援 | 旭) C-a-1 ・大学の特性を活かした学生支援制度の充実、新支援制度の導入と確立 | 1 短期留学制度の設立（医学科） |
| | | 2 学生支援体制の強化（医学科／看護学科） |
| | | 3 学生相談室、学生支援室の有効活用（医学科／看護学科） |
| | | 4 学生寮を活用した教育制度の見直しの検討（医学科） |
| | 旭) C-a-2 ・DI推進（医学研究科） | 1 女性研究者支援制度の検討 |
| | | 2 研究発表を通じた活動内容の発信 |
| 旭) C-a-3 ・研究環境の整備と院生間の交流推進・拡大（医学研究科） | 1 外国人教員・学生受け入れの構築 | |
| C-b 教育の質の向上 | 旭) C-b-1 ・医学科の教育の質向上 | 1 医学教育分野別評価認証の受審結果（指摘事項）への対応 |
| | | 2 講義法改善のFD |
| | 旭) C-b-2 ・教員の教育力の向上 | 1 教育成果の検証と成績不振者対策 |
| | | 2 到達目標と成果評価を明確化 |
| | 旭) C-b-3 ・学生のモチベーションの維持・向上（医学科） | 1 時代や社会状況に応じた切れ目のないカリキュラム（講義・実習）の改善の検討 |
| | | 2 USMLE STEP1試験の有効活用 |
| | 旭) C-b-4 ・看護学教育評価認定の取得と看護学科カリキュラムマネジメントのための学習成果の可視化（看護学科） | 1 日本看護学教育評価機構（JABNE）の評価申請の準備 日本看護学教育評価機構（JABNE）の評価の申請・受審 |
| | | 2 ポートフォリオ（実習ポートフォリオ／学習ポートフォリオ）の充実によるアセスメント戦略の推進 |
| | 旭) C-b-5 ・国際性を伴う大学院教育の充実と改善：アジアさらには世界に開かれた研究拠点（医学研究科） | 1 外国人入学者向けカリキュラム充実 |
| | | 2 国際交流事業を活性化し世界的知名度向上を目指す |
| | 旭) C-b-6 ・基礎研究及び臨床研究の推進と大学院生の動的能力向上計画作成と実行（医学研究科） | 1 大学院生のコミュニケーション能力向上 |
| | | 2 臨床医に必要な動的能力向上を目的とした医学研究科カリキュラムの作成 |
| | 旭) C-b-7 ・多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師を育成（医療検査学科） | 1 医学部の質の高い臨床検査専門教育の提供 |
| 2 全学的文医融合プログラムによるヘルスサイエンス教育の提供 | | |
| 3 教育・実習施設の整備 | | |
| 4 臨地実習病院の確保（臨検校より34名の定員増加） | | |

| 重点項目 | 行動目標 | 行動計画（5年間） |
|--------------------------------------|---|---|
| D 進学・就職 | 旭) D-1 ・新卒者の医師国家試験合格率95%以上（医学科） | 1 ディプロマポリシー遵守のための評価の厳格化 |
| | | 2 臨床研修へのスムーズな移行を支援 |
| | | 3 医師国家試験支援体制の拡充 |
| | 旭) D-2 ・看護師及び保健師の国家試験合格者を100%とする（看護学科） | 1 ディプロマポリシー達成度の定期的な確認 |
| | | 2 模擬試験企画。成績結果のアドバイザー教員との共有による個別指導及び国試就職委員会での個別指導の継続 |
| | 旭) D-3 ・臨床検査技師国家試験合格率100%の達成（医療検査学科） | 1 臨床検査技師国家試験の支援体制の充実 |
| | | 2 ダブルライセンス：診療情報管理士試験の支援体制の充実 |
| | 旭) D-4 ・修士課程の教育の質の担保 | 1 優秀な学生の受け入れのため、入試の時期を早める |
| | | 2 学習支援体制の充実と終了後の各種認定審査受審にむけた支援体制の充実 |
| | 旭) D-5 ・博士課程の教育の質の担保 | 1 大学院医学研究科博士課程に「看護学専攻」の設置を検討 |
| 旭) D-6 ・博士号取得者の質担保を目的とした久留米モデルの構築 | 1 質の高い博士号取得を目指した久留米モデルの確立 | |

戦略目標：特色のある研究の展開を図り、研究のブランド化を進めると共に外部資金獲得の強化を図る。

| | | |
|---------------|--|---------------------------------------|
| E 研究（研究活動活性化） | 旭) E-1 ・質の高い研究を推進し、RMCP実習（医学科）や研究Ⅰ（2学年）・Ⅱ（3学年）・Ⅲ（4学年）（看護学科）による研究マインドの醸成 | 1 学会発表や論文発表の積極的取組み |
| | | 2 研究者や大学院進学希望者の増加（医学科／看護学科） |
| | 旭) E-2 ・研究活動の推進 | 1 文部科研、厚労科研、AMEDの申請件数と採択率向上の取組み |
| | 旭) E-3 ・研究室配属による研究の実践（医療検査学科） | 1 臨床検査応用選択コースによる研究の実践 |
| | | 2 ヘルスサイエンスコース（バイオ・データ・マネジメントによる研究の実践） |
| | | 3 大学院修士課程進学を希望する学生の育成 |

戦略目標：学内一体となった地域連携・産学官連携を推進し、持続可能な地域と国際社会の発展に寄与する。

| | | |
|-------------|--|-------------------------------|
| F 社会貢献・地方創生 | 旭) F-1 ・御井キャンパスの地域連携部門との関連を高める（医学部） | 1 社会貢献活動を評価する |
| | 旭) F-2 ・研究成果の地域への発信 | 1 HPやSNSを介した研究業績の発信と市民公開講座の開設 |

全学

戦略目標：学内外の連携を深め、多様な志願者を集め、特色のある教育を推進することにより、教育の質を確保する。

| 重点項目 | 行動目標 | 行動計画（5年間） |
|------|-----------------------------------|--|
| A 全学 | 全学) A-1 ・全学的な教育・研究の推進及び管理体制の整備 | 1 国の施策（指針）についての対応方針策定 |
| | | 2 研究倫理教育及び研究費等の不正使用防止体制の強化（研究不正防止計画に基づく） |
| | | 3 研究支援及び研究体制の強化 |
| | | 4 研究・教育におけるDI（ダイバーシティ・インクルージョン）の推進と環境整備 |
| | | 5 近隣教育機関等との全学的な連携の推進 |
| | | 6 DXを通じた業務運営・改善 |
| | 全学) A-2 ・文医融合の推進・強化 | 1 文医融合の教育・研究の推進（SDGs含む） |
| | | 2 文医融合推進による御井学舎からの医学研究科志願者確保 |
| | | 3 医療経営研究センターの3領域（医療経営・大学院教育・社会還元）一層の充実 |
| | | |

大学病院

戦略目標：機能分化と連携強化をすすめ、高度な医療でブランド化を図る。

| 重点項目 | 行動目標 | 行動計画（5年間） |
|---|---|--|
| A 財務基盤 | 病) A-1 ・医療収入の増加 | 1 病床稼働率の向上 ①診療科別入院患者目標数の達成 |
| | | 2 病床稼働率の向上 ②病床機能や病床数の適正な配置 |
| | | 3 外来における初診患者数の増加 |
| | | 4 手術件数の増加 |
| | | 5 がん医療の充実 |
| | | 6 救急医療の充実 |
| | | 7 小児・周産期医療の充実 |
| | 病) A-2 ・収支バランスの検証と改善 | 1 薬剤に関する収支バランスの検証と改善 |
| | | 2 医療材料に関する収支バランスの検証と改善 |
| | | 3 委託費や保守料の削減 |
| | 病) A-3 ・高度医療実践のための診療機器や設備等の充実と費用対効果の検証 | 1 高度医療実践のために診療機器や設備等の充実を図るとともに、特に高額な機器設置後の費用対効果について、定期的な検証を行う |
| | 病) A-4 ・診療報酬請求における精度の向上 | 1 診療報酬請求における査定対策の強化 |
| | B 顧客満足度 (サービス・質) | 病) B-1 ・患者満足度の向上 |
| 2 「外来待ち時間」短縮に向けた取組みの強化 | | |
| 3 患者が求めている情報を分かりやすく伝えるとともに、他院と差別化できるブランドイメージの確立を目指すべく、広報紙やホームページ等の充実を図る | | |
| 4 診療プロセスに関し、患者が理解できるよう説明・同意を徹底する | | |
| 病) B-2 ・紹介元医療機関の満足度向上 | | 1 紹介率や逆紹介率の向上 |
| | | 2 新たに開始した診療や新規導入機器の紹介など、医療機関が求めている情報を的確に発信すべく、医療機関向け広報紙やホームページ等の充実を目指す |
| | | 3 久留米大学関連医療施設協議会との連携強化 |
| C 業務改善 | 病) C-1 ・看護部門におけるBSCの推進 | 1 看護部門におけるBSCの推進 |
| | 病) C-2 ・中央部門における治療・検査効率の向上 | 1 放射線部門（画像診断センター、放射線腫瘍センター、核医学・PETセンター、血管造影部門）における検査効率等の向上 |
| | | 2 臨床検査部門における検査効率等の向上 |
| | | 3 リハビリテーション部門におけるリハビリ効率等の向上 |
| | 病) C-3 ・業務改善の手段としてのDX活用 | 1 業務負担の軽減と生産性向上等に資するAIやICTの利活用を推進する |
| | 病) C-4 ・非常事態・緊急時における診療機能の維持 | 1 風水害・地震等を想定した災害訓練の実施と事業継続計画（BCP）の定期的な見直し |
| | | 2 新興感染症への対応と高度な医療提供の両立 |

| 重点項目 | 行動目標 | 行動計画（5年間） |
|------------|--------------------------------|--|
| D 人材確保と育成 | 病) D-1 ・働き方改革の推進と勤務環境の改善 | 1 働きやすい職場環境の構築により、教職員の健康と安全を確保するとともに、医療の質を高め、患者の安全と健康の確保に繋げる |
| | 病) D-2 ・安全で質の高い医療を提供する体制の強化 | 1 特定機能病院としての安全で質の高い医療を提供する体制の強化 |
| | | 2 職員に対する効果的な研修の実施 |
| | 病) D-3 ・臨床研修体制の改善 | 1 研修環境の改善 |
| 2 指導医の資質向上 | | |



医療センター

戦略目標：機能分化と連携強化をすすめ、高度な医療でブランド化を図る。

| 重点項目 | 行動目標 | 行動計画（5年間） |
|-----------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|
| A 財務基盤 | 医C) A-1 ・収益向上と経営の効率化による安定した基盤の構築 | 1 積極的な患者受入 |
| | | 2 積極的な院外での地域医療連携活動 |
| | | 3 効率的な手術室運営 |
| | | 4 適正な診療報酬請求と積極的な加算取得 |
| | | 5 経費削減活動 |
| | | 6 各診療科クリニカルパスの改訂 |
| 医C) A-2 ・新収益軸の確立 | 1 関連団体の積極的な利用 | |
| | 2 診療形態の多様化 | |
| B 顧客満足度 (サービス・質) | 医C) B-1 ・地域に選ばれる病院づくり | 1 顧客満足度調査実施 |
| | | 2 院内施設設備の整備 |
| | | 3 入退院支援、外来予約方法検討 |
| | | 4 地域医療従事者に向けた情報発信 |
| | | 5 医療・施設からのワンポイント相談(受診相談など)の充実 |
| | | 6 久留米市包括ケアシステム (KICS) 基幹病院体制の構築 |
| 医C) B-2 ・安全で質の高い医療を提供する体制の維持向上 | 1 医療安全、感染対策室の組織強化 | |
| | 2 クリニカルインディケータの整備・公表 | |
| C 業務改善 | 医C) C-1 ・医療センター、大学病院の機能分化の推進 | 1 機能分化後の適正な人員配置と検証 |
| | | 1 医療スタッフの配置・勤務体制検討 |
| | 2 DXの推進 | |
| 医C) C-2 ・適正な人員配置と働き方改革の推進 | 1 BCPマニュアルに沿った訓練実施と評価 | |
| | 2 大学病院放射線設備等の浸水被害回避に向けた医療センター移転の検討 | |
| 医C) C-3 ・災害対策体制の整備 | 1 医師育成のための研修制度の充実 | |
| | 2 専門医、認定医の育成 | |
| D 人材確保と育成 | 医C) D-1 ・患者の尊厳を守る、人間性豊かな医療従事者の育成 | 3 高度技能を有するコメディカルの育成 |
| | | 4 コメディカル部門の研修の充実 |
| | | 5 次世代医療人としての学生教育の推進 |

附設高等学校・中学校

戦略目標：志願者を確保するとともに、特色のある教育を推進することにより、更なる質の向上とブランド化を図る。

| 重点項目 | 行動目標 | 行動計画（5年間） |
|--------------------------------|--|---------------------------------------|
| A 学生受け入れ | 附) A-1 ・教育活動の優れた成果を全国に広報し、優秀な入学者を確保する。 | 1 学習塾・メディアとの連携強化 |
| | | 2 学校に関する適切な情報を提供し、応募を促進する入学説明会の開催者 |
| B 学生支援 | 附) B-1 ・学校教育全体及び個々の生徒の教育を効果的に実現するための資料を充実させる。 | 1 附設教育振興基金への募金協力依頼（同窓会等） |
| | | 2 各種奨学金の学内への周知 |
| | | 3 老朽化した施設の更新 |
| | | 4 同窓会・後援会と緊密に連携して教育支援を実施する |
| C 教育の質の向上 | 附) C-1 ・中等教育機関としての教育機能の充実 | 1 教育の更なる充実と深化・高度化による、多分野に亘る進学実績の確保と向上 |
| | | 2 情報機器の教育への導入 |
| | | 3 各種学校行事の着実な実施 |
| 附) C-2 ・高い知力を背景とする優れた人間性の陶冶 | 1 各学年での校外研修の成果を発信する | |
| | 2 中学の卒業論文・制作の完成のための指導を行い、優れた結果を追求する | |
| D 進学 | 附) D-1 ・旧帝大をはじめとする難関大学への合格者が多数を占めるようにする。 | 1 難関大学への合格に向けた特別講座の充実化 |
| | | 2 定期試験・校内外模擬試験結果にもとづく学習支援 |
| | 附) D-2 ・多分野に亘る進学実績を実現させる。 | 1 文系、理系の両分野にわたる高度な内容の授業を展開する |
| | | 2 進路講座の開催 |



管理・運営

戦略目標：安定した経営基盤を確立する。

| 重点項目 | 行動目標 | 行動計画(5年間) |
|--------|----------------------------|---|
| A 管理運営 | 管) A-1 ・キャンパスマスタープランの策定 | 1 キャンパス整備の優先的課題および経営的課題の明確化 |
| | | 2 保有施設資産の再生・有効活用の検証・評価 |
| | | 3 整備計画に基づく資産形成・財政強化 |
| | 管) A-2 ・大学運営体制の改革 | 1 教職員の人事制度の見直し (教職員のモチベーション向上に資する人事制度の見直しや研修体制の見直し及びそれに伴う人材育成、社会変化に応じた組織体制と新たな雇用形態の導入等を検討する) |
| | | 2 大学ブランド化の推進 ・学内外への情報発信、情報共有により多面的に大学ブランドの醸成を図る ・広報戦略の実践と推進 |
| B 財務基盤 | 管) B-1 ・財務基盤の強化 | 1 寄付文化の醸成に向けた取組み |
| | | 2 各種寄付金増への取組み |
| | | 3 補助金等の獲得に向けた取組みによる財源確保 |
| | 管) B-2 ・外部資金獲得の推進 | 1 競争的研究費を含む外部資金(科研費、AMED、民間財団等)獲得に向けた支援強化 |
| | | 2 産学連携による共同研究等の推進 |

キャンパス案内



旭町キャンパス(医学科)



旭町キャンパス(看護学科)



御井キャンパス(文系)



附設中学校・附設高等学校



大学病院



医療センター



臨床検査専門学校

KURUME UNIVERSITY

旭町キャンパス(医系)

本部・医学部(医学科)・大学院(医学研究科)
〒830-0011 福岡県久留米市旭町67 TEL:0942-35-3311 / FAX:0942-27-8712

医学部(看護学科)・認定看護師教育センター
〒830-0003 福岡県久留米市東柳原町777-1(看護学科) TEL:0942-31-7714 / FAX:0942-31-7715(認定C) TEL:0942-31-7871 / FAX:0942-31-7868

臨床検査専門学校
〒830-0011 福岡県久留米市旭町67 TEL:0942-31-7592 / FAX:0942-31-7724

大学病院
〒830-0011 福岡県久留米市旭町67 TEL:0942-35-3311 / FAX:0942-32-6278

御井キャンパス(文系)

文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部・大学院(比較文化研究科・心理学研究科・ビジネス研究科)・留学生別科
〒839-8502 福岡県久留米市御井町1635 TEL:0942-43-4411 / FAX:0942-43-0574

附設中学校・附設高等学校
〒839-0862 福岡県久留米市野中町20-2 TEL:0942-44-2222 / FAX:0942-44-8257

医療センター
〒839-0863 福岡県久留米市国分町155-1 TEL:0942-22-6111 / FAX:0942-22-6533

福岡サテライト
〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-2 エルガーラオフィス6階 TEL:092-737-3111 / FAX:092-737-3112

北京教育交流センター
100037 中国北京市西城区北礼士路甲98号 阜成大厦 B座 408号 TEL:(86-10)6833-5898 / FAX:(86-10)6833-4640



学校法人 久留米大学
〒830-0011 久留米市旭町67
TEL 0942-35-3311 FAX 0942-27-8712
<https://www.kurume-u.ac.jp/>